

いつもそこだけを

いつもそこだけを残しておかう
私は見ないやうにしよう
お前の歴史の中で
もりあがるやうなはげしいたみ

お前の手はかくさうとしてゐる
私の手はお前の手をはねのけて
お前の苦しさうな表情を
見つめておいてから お前の手にかはる

私たちに愛いふものが
通ひはじめるのは いつも
そのあとからだつた

かけひのかけられたやうに
私の中にお前が やがては
お前の中に 私が 音たてて流れるのだ